

# MASによる本校生徒の実態

金沢大学教育学部附属高等学校

亀 田 富 子  
滝 野 勲  
木 ノ 本 正 夫

## 1 調 査 目 的

学校教育は、生徒の学習能力を高め人格を向上発達させるものである。しかし現今の教育はいくらか緩和されたとはいえまだ学業成績が重視され情緒面が軽視されがちである。一般社会においても、まだまだ知育偏重主義の状態がつづいている。文部省から生徒指導について、つぎつぎと出版されてはいるもののなかなか人格的向上の実現はむずかしいものである。

多数の志望者の中から選抜された本校の生徒は、小・中学校において特に優秀な成績をおさめた者ばかりなので自己の学力には相当の自信をもっていたと思われる。しかし入学後はこれらの生徒達にも学業成績の順位がつくので、今までの自信をなくし不安を抱く者ができるだろう。また周囲の環境条件、生徒の内的条件から学習意欲を失なう者もできるだろう。そこで本校生徒の情緒面での実態をとらえるために、近年注目されている Taylor の不安テスト (MAS) を実施し生徒達の不安度を測定した。

## 2 調 査 方 法

性格検査として矢田部ギルフォード性格検査 (YGテスト), Taylor の不安テスト (MAS) の二種類を実施し、学業成績 (一学期末成績), 学力テスト (国語・英語・数学, 運動系クラブを参考に次の諸点について調べてみた。

- 1) MASとYGテストとの相関
- 2) MASと学業成績との相関
- 3) MASと学力テストとの相関
- 4) MASと運動系クラブとの関係

## 3 調 査 対 象

本校1・2・3年対象

(男子352名, 女子117名, 計469名)

## 4 M A S の 構 成

このテストは、1953年 J.A. Taylor によって発表された質問紙法の検査である。Taylor の不安は、N. Cameron の慢性不安反応についての定義にしたがったものである。Cameron が慢性不安反応は、1) 筋肉系・内臓系の緊張をとみなう。筋肉系の緊張として頭・頸・肩・腕などの痛み、指尖・舌・唇・眼瞼などの振えを訴え、また姿勢・表情・発語などの身体運動においていちじるしく緊張する。内臓系は食欲不振・空腹感・嘔気・下痢・四肢の冷えなどが現

われる。

2) 精神的障害をとまなう。思考を集中できず仕事の持続がない。つねに焦燥感・疲労感があり眠りは浅く夢にうなされる。人をさけ、緊張を高めるような仕事や場所から逃れたいと思う。

結局慢性不安反応の強い個人はこれらの身体的、精神的な緊張感によって軽い刺激に対する過大なそして不適当な反応がもたらされ、さらに動悸の亢進、呼吸困難など不安発作をしめすようになる。

Taylor はこのような見解にしたがって5名の臨床家とともに、ミネソタ多面人格テスト(MMPI) から質問項目を選択して50項目にテストを構成した。

## 5 M A S の 内 容

### M A S 調 査 表

氏 名

生 年 月 日                      年                      月                      日

職 業 (学校, 学年)

調査年月日

◎ この調査表には、50の質問があります。本当にありのまま正直にお答え下さい。

◎ 答えは 1. はい 2. いいえ 3. どちらともわからない の3つになります。

自分の気持にあたると思われるところ一箇所だけに○印をつけて下さい。

◎ 注 意

1. この答えによって、あなたという人間がどういう人間だというように、いわゆる人物評価をするものでは決してありません。また、ここに答えたことに関しては絶対に秘密を守りますからその点は御安心下さい。

2. 回答中、声を出したり、人を見たりしないようにお願いします。

1. 私は疲れやすいということはありません。

1. はい 2. いいえ 3. どちらともわからない

2. 私は時々お腹が気持ち悪くなることがあります。

1. はい 2. いいえ 3. どちらともわからない

3. 私はいらいらすることがありますがそれは人並以上です。

1. はい 2. いいえ 3. どちらともわからない

4. 私は頭がいたくなるということがありません。

1. はい 2. いいえ 3. どちらともわからない

5. 私は仕事をする時には非常に緊張を感じてやります。

1. はい 2. いいえ 3. どちらともわからない

6. 私は一つのことだけに専心するということできません。

1. はい 2. いいえ 3. どちらともわからない

7. 私はお金のことや仕事(勉強)のことで気に病む方です。

1. はい 2. いいえ 3. どちらともわからない

8. 私はよく何かをしようとすると、手がふるえるのに気がつくことがあります。

1. はい 2. いいえ 3. どちらともわからない

9. 私は時に顔を赤くすることがありますが、その程度は他の人よりも多いと思います。  
1. はい 2. いいえ 3. どちらともわからない
10. 私は月に1回あるいはそれ以上下痢をします。  
1. はい 2. いいえ 3. どちらともわからない
11. 私は何か困ったことが起りはしないかと、大変心配します。  
1. はい 2. いいえ 3. どちらともわからない
12. 私はめったに顔が赤くなるということがありません。  
1. はい 2. いいえ 3. どちらともわからない
13. 私はよく顔が赤くなりはしないかと心配します。  
1. はい 2. いいえ 3. どちらともわからない
14. 私はよく夜しばしば恐ろしい夢をみてうなされることがあります。  
1. はい 2. いいえ 3. どちらともわからない
15. 私は手や足のさきがいつも暖かくなっております。  
1. はい 2. いいえ 3. どちらともわからない
16. 私は涼しい日でもすぐ汗をかきます。  
1. はい 2. いいえ 3. どちらともわからない
17. 私は何か困ったことがあると、すぐ汗を出すのですがこれが非常に気になります。  
1. はい 2. いいえ 3. どちらともわからない
18. 私は心臓の動悸が気になることや、息切れしそうだということはめったにありません。  
1. はい 2. いいえ 3. どちらともわからない
19. 私はいつも腹がすいているような感じがしています。  
1. はい 2. いいえ 3. どちらともわからない
20. 私は胃腸が何日も重苦しくて、調子がよくないと感じる 때가ときどきあります。  
1. はい 2. いいえ 3. どちらともわからない
21. 私は夜心配のため眠れないことがときどきあります。  
1. はい 2. いいえ 3. どちらともわからない
22. 私は胃腸がとても弱くて困ります。  
1. はい 2. いいえ 3. どちらともわからない
23. 私は熟睡できず、ちょっとした音にもすぐ眠りをさめます。  
1. はい 2. いいえ 3. どちらともわからない
24. 私は時々人に話せないような夢を見ます。  
1. はい 2. いいえ 3. どちらともわからない
25. 私はちょっとしたことにすぐ困ってしまいます。  
1. はい 2. いいえ 3. どちらともわからない
26. 私はたいていの人よりも感情を害いしやすい方です。  
1. はい 2. いいえ 3. どちらともわからない
27. 私はいつも何かかにかの心配をしていることが多いと思います。  
1. はい 2. いいえ 3. どちらともわからない
28. 私は他の人のように幸福になりたいと思います。  
1. はい 2. いいえ 3. どちらともわからない
29. 私は泣きやすい方だと思います。

1. はい    2. いいえ    3. どちらともわからない
30. 私はいつも平静で、たいがいのことでは慌てたりうろたえたりしません。  
1. はい    2. いいえ    3. どちらともわからない
31. 私は物事や他人についてくよくよするたちです。  
1. はい    2. いいえ    3. どちらともわからない
32. 私はいつでも幸福です。  
1. はい    2. いいえ    3. どちらともわからない
33. 私は待たされると、すぐいらいらして来ます。  
1. はい    2. いいえ    3. どちらともわからない
34. 私はよく長くすわってられない程気持ちが落着かなくなることがあります。  
1. はい    2. いいえ    3. どちらともわからない
35. 私は時々眠れない程興奮します。  
1. はい    2. いいえ    3. どちらともわからない
36. 私は時々多くの困難にぶつかって、もうどうすることもできないと感ずることがあります。  
1. はい    2. いいえ    3. どちらともわからない
37. 私はよく実際には、問題にならないような事柄について、理由のない心配をすることがあります。  
1. はい    2. いいえ    3. どちらともわからない
38. 私は友達などにくらべると恐ろしいものが少ない方です。  
1. はい    2. いいえ    3. どちらともわからない
39. 私は自分に害を与えるはずがない人間や物事を恐ろしがることがよくあります。  
1. はい    2. いいえ    3. どちらともわからない
40. 私は自分を役に立たない人間だと思ふことがあります。  
1. はい    2. いいえ    3. どちらともわからない
41. 私はたいていの人よりは、もっと自分というものを意識する（考える）ことが多いと思ひます。  
1. はい    2. いいえ    3. どちらともわからない
42. 私は何でも物事をむずかしく考える方です。  
1. はい    2. いいえ    3. どちらともわからない
43. 私は細かい事が気になるたちです。  
1. はい    2. いいえ    3. どちらともわからない
44. 私は生きていくことがとてもつらいと思ふことがよくあります。  
1. はい    2. いいえ    3. どちらともわからない
45. 私という人間は取柄のない人間だと時々思ひます。  
1. はい    2. いいえ    3. どちらともわからない
46. 私はあせってばかりいて、仕事さっぱり手につかないことがあります。  
1. はい    2. いいえ    3. どちらともわからない
47. 私は自分というものに全々自信が持てません。  
1. はい    2. いいえ    3. どちらともわからない
48. 私は自分はもうダメになるのではないかと感ずることが時々あります。  
1. はい    2. いいえ    3. どちらともわからない

49. 私は困難なことに直面したり重大な決断をしたりするのを好みません。

1. はい 2. いいえ 3. どちらともわからない

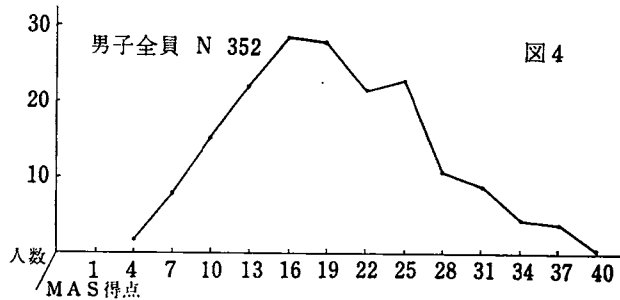
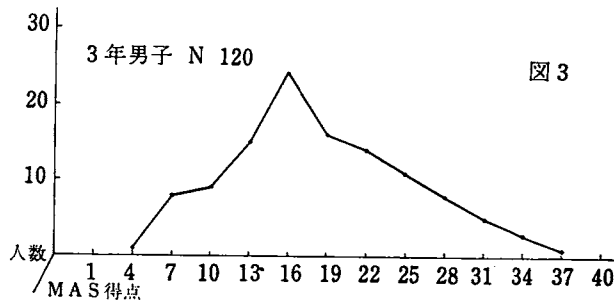
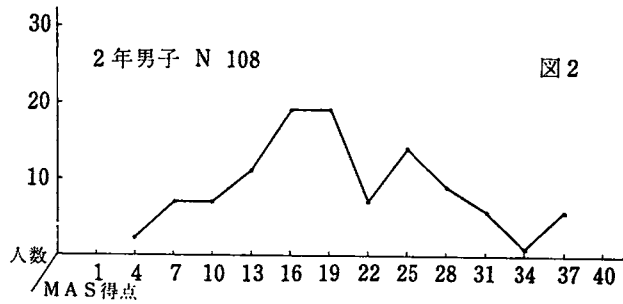
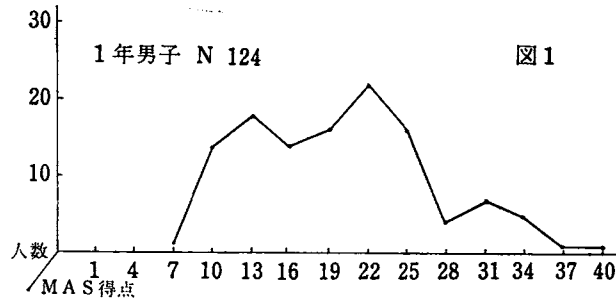
50. 私は自分に非常な自信があります。

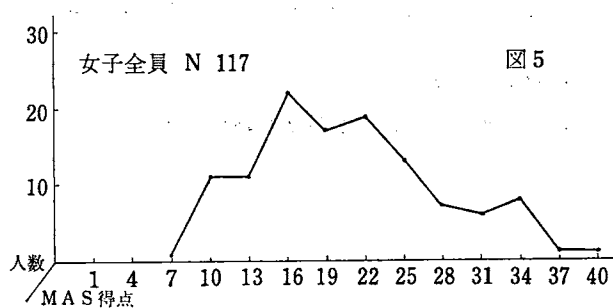
1. はい 2. いいえ 3. どちらともわからない

## 6 結果・考察

### 1) MASの分布表

N=人数





## 2) MAS の平均値と標準偏差

表 1

学年		男子				女子
		A (クラス)	B (クラス)	C (クラス)	全 員	全 員
1	N	42	41	41	124	29
	M	18.21	18.52	21.15	18.62	18.01
	SD	6.58	6.12	7.55	7.00	5.22
2	N	37	35	36	108	46
	M	17.50	17.84	19.33	18.25	20.5
	SD	7.74	7.80	8.10	7.97	7.88
3	N	40	40	40	120	42
	M	17.87	16.75	16.60	17.07	18.7
	SD	7.56	6.32	6.65	6.90	7.80

N 人数 M 平均値 SD 標準偏差

### 本校 1・2・3 年男子全員

N 352  
M 17.98  
SD 7.31

### 大学生男子

N 72  
M 17.60  
SD 6.44

### 本校 1・2・3 年女子全員

N 117  
M 19.09  
SD 7.14

### 大学生女子

N 98  
M 23.58  
SD 7.60

男子では学年が進むにつれて不安度は低くなる傾向にあり、女子では 2 年生の不安度が高く 1 年生の不安度が低い。本校生徒と大学生の不安度とを比較すると男子では変らないが女子では大学生よりも低い不安度を持っている。また女子は一般に男子よりも高い得点を示していることが興味深い。（大学生の調査は金沢大学精神科、中村先生の記録による）

### 3) MASとYGとの相関

表 2

		S	T	D	C	R	G	A	I	N	O	Ag	Co
男子		.0 .27	.25	.67	.52	.13	.26	.33	.68	.66	.55	.18	.47
	1%以下の危険率	有意	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有
女子		.0 .26	.33	.68	.53	.16	-.42	.36	.49	.66	.57	.10	.49
	1%以下の危険率	有	有	有	有	無	有	有	有	有	有	無	有

第(2)表によると男子では(D)抑うつ性, (C)情緒不安定, (I)劣等感, (N)神経質, (D)主観性の下位尺度とそれぞれ高い正の相関がみられる。(S)社会的内向性, (T)思考的内向性, (G)活動性, (A)服従性, (Co)非協調性についてもある程度の相関があるが, (R)のんきさ, (Ag)攻撃性においてはほとんど相関はみとめられない。女子においては, (D・C・N・O)は相当高い正の相関がみとめられ (I・Co)はこれにつき, (S・T・A)においてもある程度の相関がある。(R・Ag)は1%の危険率では有意とはいえないが, (R)は5%以下の危険率で有意である。(G)は負の相関をしめしている。また女子の(G)は-0.42であるが男子の(G)が+0.26であることも注目される。女子においては活動性があるほど安定した行動をとるといえるだろう。

#### 4) MASとYGプロフィールの型との関係

YGテストの結果えられたN・S・E型の問題生徒は, 男子においてはそれぞれ8.8%, 5.0%, 2.2%であり女子においては, 7.7%, 7.7%, 1.7%であった。これらについてMASの平均値は下表のごとくである。

YGプロフィールの型	MASの平均値	
	男子	女子
N (神経質型)	27.4	30.6
S (社会不適応型)	24.0	30.8
E (非社会型)	23.5	32.0

#### 。N (神経質型)

D・C・I・N 情緒不安定性

O・Co・Ag 非社交性

G・R 非活動性

T・A・S 内向性

- S（社会不適応型）自殺型
  - D・C・I・N 情緒不安定性
  - O・Co・Ag 非社交性
  - G・R 衝動的
  - T・A・S 内向性
- E（非社会型）不良型
  - D・C・I・N 情緒不安定性
  - O・Co・Ag 非社交性
  - G・R 衝動的
  - T・A・S 外向性

一応問題生徒の発見に役立てられている三つの型に属する生徒達のMASの得点は一般生徒よりも高いといえる。

#### 5) MASと学業成績との相関

表 4

	男 子	女 子
3 年	-0.079	-0.002
2 年	-0.07	-0.05
1 年	-0.004	0.21

学業成績とMASとの相関は有意に認められないが、しかし表（5）から成績が0を平均値として+8+4-4-8に属する生徒、即ち成績の中位にいる者ほど不安度の得点が高い。

#### 6) MASの得点が31以上の者と学業成績との関係

表 5

成 績	20	16	12	8	4	0	-4	-8	-12	-16	-20
男 子 (人数)	1		1	3	4		3	1		1	4
女 子 (人数)				3	2		3	1	1		

男子では-20の下位グループに4名いるのは自己の成績が思うようにならないので不安度が高いのだろう。



## 7) MASと学力テストとの相関

表 6

3年	男 子	0.005	女 子	-0.03
----	-----	-------	-----	-------

学業成績とともに学力テストとMASの相関性は有意にみとめられない。ここでも成績の中位グループに不安度の高い生徒が8名いたことは興味深い問題である。

## 8) MASと運動系クラブとの関係

表 7

	陸上	柔道	剣道	バスケット	バレー	テニス	卓現	羽球	サッカー	野球	水泳
男子	20.4	18.9	20.4	18.2	18.0	18.8	13.9	21.0	19.9	18.7	18.3
女子			22.5	17.2	20.4	18.8	18.9	16.2			

男女ともにいえることは運動系クラブ員の得点平均では一般のそれと大差はみられないが得点が31以上の不安度の高い者と、7以下の低いものはともに運動系クラブに所属していないことがわかった。

## 7 結 論

以上不安を起こす要因を学習面から調べると成績の中位グループに不安度の高いものが多く、ついで下位グループにも不安度の高いものが含まれている。学力テストの成績では下位グループに不安度の高い者がいない。上位グループには稀にみることもある。中位グループよりも下位グループに属する者がいくらか安定をしているのは自己の実力を認めているためだろう。一方中位グループでは上下の変動が激しいので自信をなくし不安度も高いのだろう。つぎにYGテストからみると、気が変りやすく、自信がない、悲観的、心配性、過敏な者ほど不安度が高い。運動系クラブ員は概してMASの不安度が低い。だからできるだけ運動系クラブに参加させるように努力したい。また地学実習のために能登で一泊して帰った直後に女子にMASを実施したら平均値が18.01から16.7に下ったのは何か意味があるのではなかろうか。

よりよき生徒指導法の一つとして学級単位で宿泊をしている学校があるが先の結果からみて、情緒面の指導に効果があるといえよう。学習成績とは関係のない気楽な話し合いの場をなるべく多くもたせることが不安解消の一方法かと思われる。今後不安得点の高い者についての色々な要因をもっと詳細に調べて生徒指導面の一助としたい。

この調査には本校補導部をはじめクラス担任の先生方の協力をいただきましたことを深く感謝して結びとする。